

平成27年度
横浜市立高等学校
及び
南高等学校附属中学校
第三者評価結果

横浜市教育委員会
高校教育課

< 目 次 >

I 「横浜市立高等学校及び南高等学校附属中学校」学校評価の体系……………	1
II 平成 27 年度第三者評価について……………	2
1 実施概要	
2 評価者及び訪問調査校	
III 訪問調査校の評価……………	3
1 横浜サイエンスフロンティア高校……………	4
2 桜丘高校……………	8
3 南高校……………	14
4 南高校附属中学校……………	18
5 金沢高校……………	21

I 「横浜市立高等学校及び南高等学校附属中学校」 学校評価の体系

市立高校及び附属中学校は、学校評価の基本である全教職員による自己評価と保護者や地域、その他学校関係者等による学校関係者評価を行うとともに、年間3～4校に対し教育活動その他の学校運営について外部の専門家等による第三者評価を行います。

市立高校及び附属中学校 学校評価は、次の手順で実施します。

1 自己評価

各学校は、校内評価委員会を組織します。校内評価委員会は、教職員による学校評価、生徒による学校評価、授業評価、保護者及び地域による学校評価を組織的に行い、評価結果の分析により課題を明らかにするとともに、学校関係者評価の結果を踏まえ、重点課題の改善策を中心に「自己評価書」を作成します。

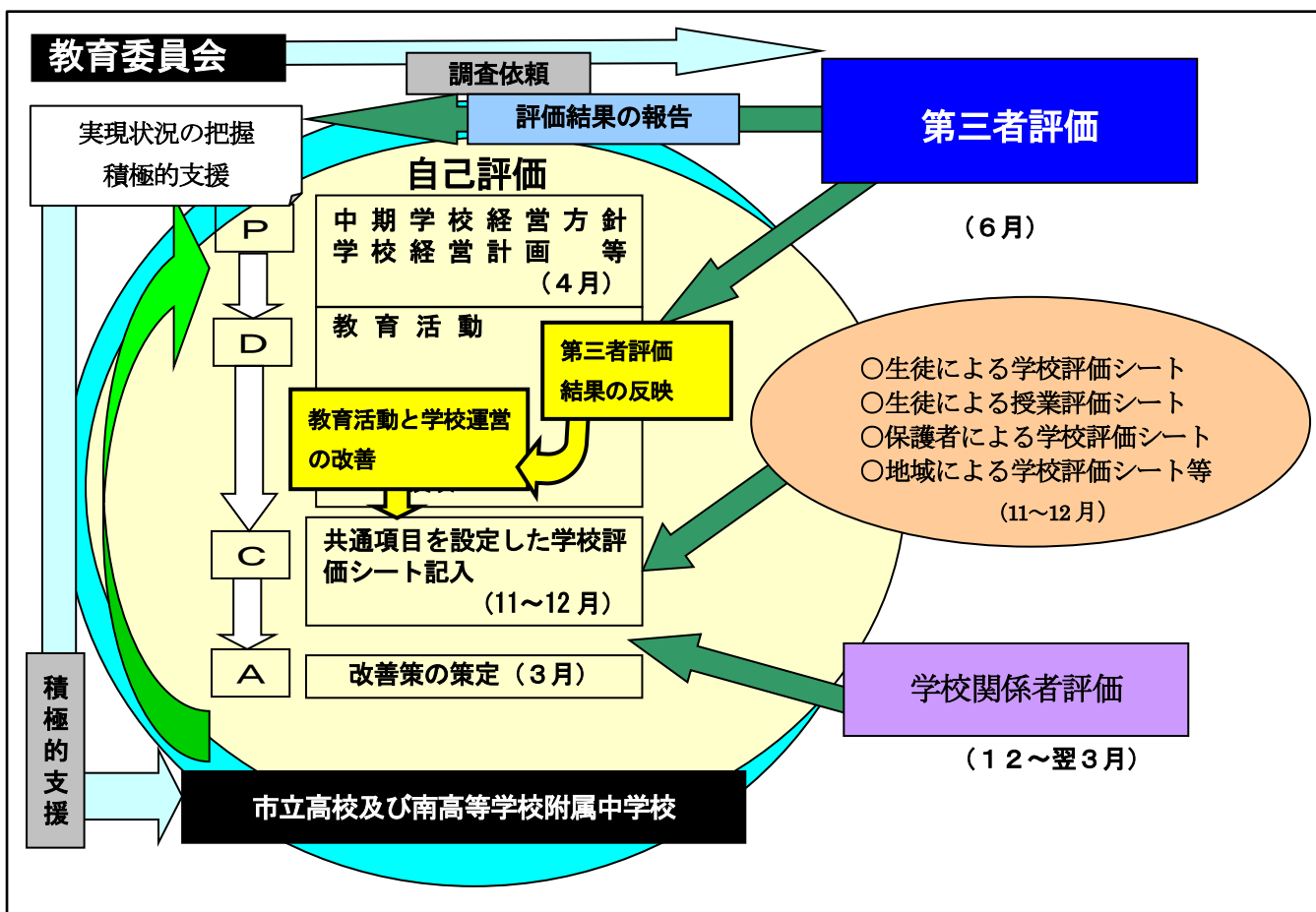
2 学校関係者評価

各学校は、学校関係者評価を実施するため、生徒の保護者や地域、その他学校関係者等によって構成される学校関係者評価委員会を組織します。学校関係者評価委員会は、各学校でまとめた評価の結果等を活用するとともに、授業や学校行事等の教育活動を観察し、「学校関係者評価書」を作成します。

3 第三者評価

教育委員会は、第三者評価を実施するため、学校運営に関する外部の専門家等による第三者評価者（以下「第三者評価者」という。）に調査を依頼します。第三者評価者は、教育活動その他の学校運営について、年間3～4校の訪問調査を行います。調査結果は教育委員会が取りまとめます。

＜市立高校及び附属中学校 学校評価の体系図＞



II 平成 27 年度第三者評価について

1 実施概要

(1) 実施方法

- ① 原則 1 人が複数の学校を訪問調査し、評価を行うこととします。
- ② 1 校につき 3 人の評価者が訪問し、評価します。
- ③ 評価者は、26 年度の「自己評価書」「学校関係者評価書」及び 27 年度「学校経営計画」について主に重点取組項目を中心に校長から説明を受けた後、授業参観、施設・設備の観察、教職員（校長・副校長・教務主任等）及び在校生からのヒアリング等を通して評価します。
- ④ 教育委員会は、評価者からの評価と講評をとりまとめ、第三者評価結果を作成し、公表します。

(2) 訪問調査校及び日程

ア 訪問調査校

金沢高校、桜丘高校、横浜サイエンスフロンティア高校、南高校及び南高校附属中学校

イ 実施日程

6 月 8 日：横浜サイエンスフロンティア高校、6 月 24 日：桜丘高校

6 月 26 日：南高校・南高校附属中学校、6 月 30 日：金沢高校

(3) 活用

ア 学校は、評価結果を教育活動及び学校運営の改善に反映させます。

イ 教育委員会は、各学校の教育環境の改善に向けた必要な措置などの施策に生かします。

2 評価者及び訪問調査校（五十音順）

評価者氏名	所 属 等	訪問調査校
生田 麻実	横浜市 P T A 連絡協議会 副会長	南高校・南高校附属中学校
植田 みどり	国立教育政策研究所 総括研究官	横浜サイエンスフロンティア高校 金沢高校
榎田 卓央	横浜市立釜利谷中学校 校長	南高校・南高校附属中学校 金沢高校
大村 眞理子	横浜市立軽井沢中学校 校長	横浜サイエンスフロンティア高校 桜丘高校
落合 優	横浜創英大学 教授	南高校・南高校附属中学校
小松 郁夫	流通経済大学 教授	桜丘高校 金沢高校
坂野 慎二	玉川大学大学院教育学研究科 教授	桜丘高校
鈴木 一男	株式会社ダイイチ 代表取締役 社長	横浜サイエンスフロンティア高校

※所属等は調査時のものです。

Ⅲ 訪問調査校の評価



桜丘高校



金沢高校



南高校・南高校附属中学校



横浜サイエンスフロンティア高校

1 横浜市立横浜サイエンスフロンティア高等学校

(訪問調査日:平成 27 年6月8日)

訪問調査担当者:植田 みどり、大村 眞理子、鈴木 一男

横浜サイエンスフロンティア高校の概要

創 立 : 平成 21 年 4 月 住 所 : 横浜市鶴見区小野町 6 番地

課 程 等 : 全日制 理数科

クラス数 : 18 クラス (1 年次 6 クラス、2 年次 6 クラス、3 年次 6 クラス)

生徒 数 : 709 名 (1 年次 237 名、2 年次 236 名、3 年次 236 名)

学 校 長 : 栗原 峰夫 校長代理 : 甲田 祐子

(1) 横浜市教育振興基本計画の推進状況

観点	「特色ある高校づくり」のための新たな使命達成に向けた取組を推進しているか
評価	<input checked="" type="radio"/> A (満足できる) B (概ね満足できる) C(努力が必要)
	A (満足できる) <input checked="" type="radio"/> B (概ね満足できる) C(努力が必要)
	A (満足できる) <input checked="" type="radio"/> B (概ね満足できる) C(努力が必要)
所見	<ul style="list-style-type: none"> ・進学指導重点校として、SSH や SGH の指定を受け、積極的に教育活動を展開し、同校が目指す目標をほぼ達成している。また、子供たちの希望を叶えることを重視しながら、進学実績も着実に上がっている。 ・グローバルリーダーを育成する取組を教育課程上に位置づけ、使命の達成に向け努力する姿勢がある。 ・大学、企業、専門機関等との連携の中で、授業への講師招聘など積極的に進めている。また、海外研修の中で、国際化の中でも通用する人材を育成するという特色が出ている。 ・キャリア教育の充実を図り、より多様な進路選択が可能な学校としての魅力づくりと、積極的な PR が必要である。 ・SGH の指定を受けたことで、理系に加えて、社会科学や国際関係などの文系の進学実績を挙げていくことを期待する。

(2) 教育活動の状況

① 教育課程

観点	学校の実態、課程や学科の特色を十分考慮した教育課程の編成がなされているか
評価	<input checked="" type="radio"/> A (満足できる) B (概ね満足できる) C(努力が必要)
	A (満足できる) <input checked="" type="radio"/> B (概ね満足できる) C(努力が必要)
	A (満足できる) <input checked="" type="radio"/> B (概ね満足できる) C(努力が必要)
所見	<ul style="list-style-type: none"> ・生徒の実態や、学校が掲げている目標を達成するための教育課程の編成が行われ、中期学校経営方針の着実な実現が図られている。また、理数系だけでなく人文社会学系への進路を選択する生徒に対する配慮が教育課程上なされている。

所見	<ul style="list-style-type: none"> ・理数科の専門学科高校として「サイエンスリテラシー」を学校独自の教科として設定するなど特色ある教育課程を編成している。また、「サイエンスリテラシー」の取組が全教員で関わりながら行われている点は評価できる。 ・生徒が自主的に学ぶ「朝学習」を組み入れたり、午前・午後に95分授業を取り入れるなどして、SSH、SGHの指定を受けた学校としての特色を考慮した日課の編成を行っている。また、終業時刻が15:50と、生徒の過重負担にならないよう工夫されている。 ・「サイエンスリテラシー」「グローバルスタディーズ」といった科学的な能力や世界的な視野を養う授業を1・2年次の教育課程に位置付けることで、高校入学後の早い時期に横浜サイエンスフロンティア高校の生徒としての素地を身に付けさせることができている。 ・部活動について、朝練がなく、活動日は週3日、土日のどちらかのみ活動となっているが、そのことにより生徒が部活に集中して取り組める工夫がされている。 ・教員一人ひとりが「サイエンスリテラシー」の授業目的を理解した授業を展開するための指導方法等の研究を行うことも必要である。 ・教科指導において、この学校の特色にあった、アクティブラーニングなどの新しい教授法を取り入れた授業展開をすることが必要である。 ・授業に参加していない生徒に対し、丁寧な対応が見られないことがあったのは、非常に残念である。また、教員の研修機会の確保と充実を期待する。 ・同じ教科の中での教員の授業力の差を感じる。生徒が興味・関心をもち、意欲を引き出すような授業をどの教員もできるよう授業力向上を進めて欲しい。 ・進路指導や授業改善に取り組む姿勢は表れていたが、保護者との連携を進めると更によい。
----	---

② 進路指導

観点	進路指導が綿密に計画され、生徒の希望進路を叶える取組が行われているか
評価	A (満足できる) <input checked="" type="radio"/> B (概ね満足できる) C (努力が必要)
評価	A (満足できる) <input checked="" type="radio"/> B (概ね満足できる) C (努力が必要)
評価	A (満足できる) <input checked="" type="radio"/> B (概ね満足できる) C (努力が必要)
所見	<ul style="list-style-type: none"> ・生徒の進学希望を優先した進路指導をしている点は、同校の教育理念からすると評価でき、着実に成果を上げている。 ・進学指導に加えて新たにキャリア教育の視点を重視した進路指導を展開している。この点が進学実績としてどう出てくるのかを今後注視する必要がある。 ・朝学習や土日、長期休業中などにも学習機会を提供するなど様々な取組をしている点は評価できる。しかし、継続性を考えたときには教員の意欲だけに依存せず、組織的な取組が必要である。 ・進路指導について、基本的には生徒に受け止められていたが、より一層のきめ細かな指導が必要かと思われる。 ・「進路に関する情報を十分に理解できているか」という問いに生徒があまり良い評価をしていないので、「進路」については1年次から丁寧な情報提供をしていく必要がある。 ・重点目標で「センター試験で700点以上」という数値目標を掲げているので達成状況を可視化する必要がある。

(3) 学校経営の状況

① 組織運営及び教職員研修

観点	教職員が意欲的に業務に取り組める組織であるか。また、課題解決のための教職員研修が行われているか
評価	A (満足できる) <input checked="" type="radio"/> B (概ね満足できる) C(努力が必要)
	A (満足できる) <input checked="" type="radio"/> B (概ね満足できる) C(努力が必要)
	A (満足できる) <input checked="" type="radio"/> B (概ね満足できる) C(努力が必要)
所見	<ul style="list-style-type: none"> ・一人ひとりの教員はととも意欲を持って日々の教育活動を展開している。また、SSHやSGHとしての教育活動を展開するために、サイエンス事務局が要となっている。 ・課せられた使命やこれまでに培ってきた学校としての質の維持・向上を教職員が一体となって、様々な工夫を行い、継続できるよう努力している様子がうかがえる。 ・人が変わっても継承できるよう業務のマニュアル化を進めたり、組織を活性化させる工夫をさらに進め、業務量が過剰負担にならないような配慮が必要である。この点については管理職も危機感を持っているので、今後の事業展開に期待する。 ・教員の研究・研修体制については、集合しての研修や各自が視聴しての研修など、形態を工夫するなどして質・量の充実を図ってみることも手立ての一つになる。 ・開校7年目と歴史が浅いために、教職員の学校方針の理解度に多少バラつきが見受けられる。現在実施している各項目をより改善し実行度を高めれば将来、学校の教育理念に沿った人材の育成にもつながることと思う。

② 学校に関する情報公開

観点	学校便りや学校ホームページ等を通じて適切に情報を公開しているか
評価	A (満足できる) <input checked="" type="radio"/> B (概ね満足できる) C(努力が必要)
	A (満足できる) <input checked="" type="radio"/> B (概ね満足できる) C(努力が必要)
	A (満足できる) <input checked="" type="radio"/> B (概ね満足できる) C(努力が必要)
所見	<ul style="list-style-type: none"> ・開校当初に比べ、地域からの信頼も高まってきている。同校がこれまで取り組んできた情報公開等は評価できる。また、保護者の理解もあり、期待も高い学校である。 ・HPの更新が適宜なされており、英文のページも作成されており大変評価できる。 ・「在校生の生徒・保護者に対するの情報提供」は学年が上がるにつれて評価が上がっているが、低学年こそ、生徒・保護者ともに情報が欲しいところなのでより丁寧に対応して欲しい。 ・地域からは、学校情報提供が「わからない」の回答が約半数あることについて、HPだけでなく紙ベースで回覧等の手立てを講じていくことで、学校に対する理解や協力がより得られるようになると思われる。 ・これまでの取組の成果や信頼を充実発展させ、地域の学校としての協同的な活動を展開することを期待する。

(4) 総合所見

- ・7年目に入り、SSHの2期目の指定も受け、あらたにSGHの指定も受けたことがその実績を示している。教員一人ひとりの努力と管理職のリーダーシップによる積極的な教育活動の成果である。
- ・校舎も廊下の広さをはじめとしてゆとりのある造りであり、各教室、特別教室なども整備されている。また、教職員や専門家による授業など「豊かさ」がある。その恵まれた環境の中で生徒がより向上心や自負心などプラスの意識をもって日々の学校生活を送っていくことを期待する。
- ・1年生の授業の中で、生徒が自分の意見を根拠をもとにしっかり述べ、それに触発されて周囲もさらに考えを深めている場面があり、生徒たちが互いに高め合う姿があった。
- ・第2期横浜市教育振興基本計画の重点取組のうち、「次代を担うグローバル人材の育成」「特色ある高校づくり」については学校の取組が濃く出ている。国際社会を視野に入れた英語教育に力を入れており、全員が学んだことを英語で発表する機会を設けていることは、将来の進路に大きく影響を与える。
- ・今後、卒業生がどんな進路でどんな意識をもっているかを追跡することで進路指導や教育課程編成に生かしていくことが期待できる。
- ・進路については、その生徒にとって将来を見据えた進路先をという指導は評価できる。その一方で、生徒の可能性を伸ばす努力の継続はしていく必要がある。その結果として進路実績が周囲に納得できるものであるようになることを期待する。
- ・教職員の異動にともない、教育の質の維持・向上は簡単ではないが、それが可能であるよう経営されるものと期待する。
- ・生徒が常任スーパーアドバイザーから、直接、リラックスした雰囲気の中、講義を受けることができ、学びに対するモチベーションが上がっている様子があった。
- ・生徒が「この学校に入学してよかった」という実感をもっており、その気持ちを卒業まで持ち続けられるよう今後も様々な場面での指導を期待する。
- ・教員の意欲や努力に依存している点が多い。現在は開校当初からの教員の属人的な職務能力によって支えられ、動いている部分もある。属人的な職務能力を組織として継承していくような組織の構築が必要である。管理職はすでにそのことに気づいているので、今後の実効性ある取組に期待したい。
- ・教員の指導力の向上が必要ということについて、同校の要である「サイエンスリテラシー」の教育活動を行うためには、アクティブラーニングのような指導方法が必要である。通常の教科指導においても、教材研究や教授法の研究などに取り組む時間や機会を保証していくことが必要である。
- ・施設設備面の整備ということについて、SSHとして開校当初に設置された施設設備の更新は重要な課題である。最新の施設設備による教育活動ができるよう環境整備を行うことが必要である。
- ・開校の理念を継承する人材の育成を行うことである。和田先生という同校の精神的な柱があることが同校の強みである。しかし、これからの長い同校の歴史を作っていくためにも、“和田先生イズム”を引き継ぐ人材を育成していくことが重要である。“和田サロン”での刺激を受け、卒業し、進学し、社会に出て行った卒業生が同校にどう貢献してくれるのかが、この学校の第2フェーズを作っていく上で重要な点ではないかと思う。卒業生との関係作りをし、積極的に活用してほしい。
- ・「国際」の視点で様々な活動を与える際に、外国語(英語)の力のある英語科以外の教職員がいなくて一部の教職員に負担が偏ってしまう。教職員の外国語力の習得・向上も何かしら方策が必要である。
- ・ここで指摘した懸念事項については、管理職はすでに認識しているので、今後の管理職の実行力とリーダーシップの発揮に期待したい。

2 横浜市立桜丘高等学校(訪問調査日:平成 27 年6月 24 日)

訪問調査担当者：大村 眞理子、小松 郁夫、坂野 慎二

桜丘高校の概要

創 立：大正 15 年 4 月 住 所：横浜市保土ヶ谷区桜ヶ丘二丁目 15 番 1 号
 課 程 等：全日制 普通科
 クラス数：24 クラス（1 学年 8 クラス、2 学年 8 クラス、3 学年 8 クラス）
 生 徒 数：948 名（1 年次 318 名、2 年次 316 名、3 年次 314 名）
 学 校 長：稲村 誠一

(1) 横浜市教育振興基本計画の推進状況

観点	「特色ある高校づくり」のための新たな使命達成に向けた取組を推進しているか
評価	A (満足できる) <input checked="" type="radio"/> B (概ね満足できる) C (努力が必要)
	<input checked="" type="radio"/> A (満足できる) B (概ね満足できる) C (努力が必要)
	<input checked="" type="radio"/> A (満足できる) B (概ね満足できる) C (努力が必要)
所見	<p>・学習面では基礎・基本の徹底から進路を意識した科目構成、最終学年での一人ひとりの進路実現を目指した学習指導を系統的に用意するなど、生徒にもわかりやすくカリキュラムが構成されている。その結果、生徒は、自然に進路への意識付けがなされている。主体的な学習に取り組みながら、卒業後を意識した学習へと導かれていく大きな流れを感じる。</p> <p>・「学習支援グループ」を設け、授業力向上に向け、様々な取組の企画・立案・運営に携わっている。アクティブラーニングの研修に行った教員が実際に授業に導入したり、年 2 回、全校で互いの授業を見合う機会を設けたりするなど向上に向けて工夫している。</p> <p>・グローバル人材の育成やアクティブラーニングなどの新しい学習支援が徐々に成果を挙げている。また、マレーシアへの海外研修に向けた英語力の向上や、日本や自校などについて説明できるような教材の開発などに取り組んでいる。</p> <p>・予備校の講師による教員研修などを開催するなど「進学指導重点校」としての工夫を積極的に行っている。</p> <p>・一斉講義型の授業がいくつか展開されていたのが残念である。通常の授業の中にも「なぜ」「どうして」といった生徒への働きかけと生徒が能動的に参加する場面がもっとあってもよい。</p> <p>・もう少し目標を高く掲げて、進路情報などを効果的に提供するなどの工夫や、校内で生徒同士が相互に切磋琢磨する環境づくりを期待する。取組の成果のさらなる飛躍を期待したい。</p>

(2) 教育活動の状況

① 教育課程

観点	学校の実態、課程や学科の特色を十分に考慮した教育課程の編成がなされているか
評価	A (満足できる) <input type="radio"/> B (概ね満足できる) C (努力が必要)
	A (満足できる) <input type="radio"/> B (概ね満足できる) C (努力が必要)
	<input checked="" type="radio"/> A (満足できる) B (概ね満足できる) C (努力が必要)
所見	<p>・平成 27 年度から2年生に数学Ⅱを必修として、国立大学向けのカリキュラムを編成することができている。</p> <p>・「SAIL～1 学年用～」には教科目標、科目構成、評価の観点、教科のガイダンスなどが記載されており、新入生にとって、高等学校の教育についての理解や学習の仕方などが全てわかるようにされている。その中で進学指導重点校であることやアクティブラーニングの導入などを意識した記載もあり、教職員が自校の教育課程の編成に前向きである。</p>

② 教科指導

観点	生徒の学力の実態を把握し、身に付けさせたい学力の定着を図るための適切な指導を行っているか 教員は授業力向上に努めているか
評価	A (満足できる) <input type="radio"/> B (概ね満足できる) C (努力が必要)
	A (満足できる) <input type="radio"/> B (概ね満足できる) C (努力が必要)
	A (満足できる) <input checked="" type="radio"/> B (概ね満足できる) C (努力が必要)
所見	<p>・学習支援グループが中心となり、積極的に授業見学会を開催し、相互に授業力の向上に努め、能動型授業を展開しようとしている。</p> <p>・「年間の学習及び評価計画」や「学習のポイント」を冊子の「SAIL」にまとめ、その活用を工夫するなど、積極的に新しい試みに挑戦して、徐々に組織的な教科指導の改善に取り組んでいる。また、夏期講習を設定し、生徒の学力の定着を図っている。</p> <p>・生徒が望む進路に向けての教育課程の編成が含まれ、70 期生より履修科目の改編を行っている。さらに、理系科目の設置や改編した履修科目のさらなる説明などを進めることで、生徒や保護者の満足度の向上につなげている。</p> <p>・自己評価書の中にあるように、出された意見や課題について前向きにとらえ、具体的な改善策を打ち出している。そのことによって、新年度からの取組目標がより明確になっている。</p> <p>・TTで行っていた授業において、具体物を使って考えさせる内容から、教員同士の連携の良さ、生徒全員が集中している様子、活気に満ちた雰囲気がかがえる。</p> <p>・能動型授業の実践は、組織全体の取組として大きな流れになっていない。授業満足度を向上させ学ぶ楽しさ等を一層高める為に、計画的に指導と評価を一体化を図る必要がある。</p> <p>・各教科、各教員の間での授業力のばらつきが全面的には解消されていない。教員自らが「学び合う」姿勢と具体的な取組が必要である。</p> <p>・授業に参加できずにいる生徒については、何かしら授業中に働きかけをするような配慮が必要である。</p> <p>・授業力向上のために、外部との連携を図ったり、授業研究の機会を設けたりしている。その成果を全教職員が授業に取り入れて、生徒が前向きに取り組むようにすべきである。</p> <p>・授業中の教室で生徒の机の上に、その授業に関係ないもの(他教科の冊子、携帯電話、スマートフォンなど)が乱雑に置かれたまま授業が進行していたのが残念であった。学習環境は清掃状態や施設の状態もあるが、まず、生活の基盤である授業中の生徒周辺の整理整頓を行うといった基本的な生活習慣を確立させて欲しい。</p>

⑤ 進路指導

観点	進路指導が綿密に計画され、生徒の希望進路を叶える取組が行われているか
評価	A (満足できる) <input checked="" type="radio"/> B (概ね満足できる) C (努力が必要)
	<input checked="" type="radio"/> A (満足できる) B (概ね満足できる) C (努力が必要)
	<input checked="" type="radio"/> A (満足できる) B (概ね満足できる) C (努力が必要)
所見	<p>・「進学指導重点校」として外部機関(予備校、大学など)と連携をもち、教職員の指導力向上や進路指導室や自習室などの環境整備にも力を入れている。その結果、国公立大学、難関私立大学とも目標を達成していた。また、生徒の将来を見据えた進路希望をかなえようとしている。</p> <p>・生徒の状況に応じて、進路室の充実を図っており、徐々にその成果が現れている。進路指導室にも生徒が気軽に入ることができるように設定されている。また、生徒だけでなく、保護者向けの進路指導の工夫もされている。</p> <p>・生徒が自分の将来の生活設計に合わせて進路を考え決定できるよう指導している。</p> <p>・2年生で、生徒自らが自分の希望する進路を固め始めており、希望の実現に向けて意欲的かつ具体的な姿が見られる。</p> <p>・「進路の手引き」の内容が充実している。進路についての校長の「巻頭言」での提言・「手引き」「資料」「体験記」など内容が系統的に構成されている。</p> <p>・教員の熱意によって現在の実績が確保されており、システムとしてではなく、教員個人のボランティアで成立している部分が少なくない。効率的な進路指導及び学習指導システムを構築する必要がある。</p> <p>・進学指導重点校としての取組状況に対する生徒・保護者の評価が平成25年度に比べて平成26年度のほうが「あまりそう思わない」「思わない」のポイント数が上がっている傾向があるので、その原因分析を行い、課題解決に取り組んで欲しい。</p> <p>・進学指導重点校として期待されるレベルは、実績値において、あと2割程度の高い目標ではないか。</p> <p>・近年は、保護者の意識も徐々に変化しており、過剰にあふれている進路情報の中、生徒自身の意思や学力の状況、適性などを見極めながら、適正に取捨選択できるよう、情報提供することが重要である。</p>

(3) 学校経営の状況

① 組織運営及び教職員研修

観点	教職員が意欲的に業務に取り組める組織である。また、課題解決のための教職員研修が行われているか
評価	<input checked="" type="radio"/> A (満足できる) B (概ね満足できる) C (努力が必要)
	<input type="radio"/> A (満足できる) <input checked="" type="radio"/> B (概ね満足できる) C (努力が必要)
	<input checked="" type="radio"/> A (満足できる) B (概ね満足できる) C (努力が必要)
所見	<ul style="list-style-type: none"> ・教職員の多忙化解消策や情報の共有などの改善点に対する取組を積極的に推進しており、各学年や教科、分掌組織それぞれで、成果が上がってきている。 ・管理職のリーダーシップの下、多くの教員が積極的な気持ちで行動している。 ・研修を行うことで教職員間のコミュニケーションを図り、前向きな姿勢を養っていくといった研修効果をあげている。 ・会議時間の短縮を図りながら、教員間の意思疎通を図るための努力が行われている。 ・「学習支援グループ」「研修旅行グループ」を新設し、分掌横断的な取組を図っている。 ・学習支援グループによって、教員の学習指導に関する研修会の充実が図られており、研修内容は講師招聘のものやVTRを用いた授業研究会など工夫がなされている。 ・「先輩に学ぼう！」という若手を対象とした人材育成の研修プログラムが行われており、年次研修受講者の中堅が企画・運営し、教員同士で教師力を高め合おうとしている。 ・「朝の打ち合わせ」を効率的に行い、始業時に学級担任が余裕をもって生徒に接することができる工夫がなされている。 ・組織運営の改善には、まず何よりも関係者の意識改革が重要である。管理職だけでなく、ミドルリーダーの果たすべき役割への期待は大きいので、リーダーの養成や研修に、一層力点を置いた改善が望まれる。 ・教職員自身の改善への否定的な回答が、依然として高いことを考慮すると、取組には思い切った具体的な対策を提示する必要がある。 ・教員の中には多忙感があり、会議時間の短縮や教職員間の意思疎通を図るための努力などが、必ずしも成果を挙げる所までは到達しているとはいえない。 ・2つのグループを新設したことで、他の校務分掌との兼任となり、負担が多くなることが懸念される。 ・「会議等が効率的に運営されている」等の評価項目について、校内で改善策を講じていく必要がある。

② 保護者・地域等との連携協力

観点	学校から保護者及び地域へ教育活動についての情報提供を行う協力体制があるか
評価	A (満足できる) <input checked="" type="radio"/> B (概ね満足できる) C (努力が必要)
	<input checked="" type="radio"/> A (満足できる) B (概ね満足できる) C (努力が必要)
	<input checked="" type="radio"/> A (満足できる) B (概ね満足できる) C (努力が必要)
所見	<p>・保土ヶ谷公園との連携事業「桜高 week !」「社会貢献 DAY」では地域の施設との事業であり、学校の地域への協力体制は素晴らしいものである。</p> <p>・いろいろな部活動が地域社会とつながった活動を継続しており、地域から評価されている。</p> <p>・ホームページも徐々に見やすく、工夫が為されており、閲覧数も増加している。</p> <p>・学園通りを基盤とした小学校・中学校との連携した取組が、地域に非常に貢献し、受け入れられている。</p> <p>・PTAとの連携は円滑であり、学校からの情報発信もおおむね良好である。</p> <p>・HPに関しては、まだ興味を強く持ってもらえる内容にまでは向上しておらず、もっぱら連絡用であったり、受検生へのPR的なものが少なくない。もっと授業の様子や学校行事の素晴らしい部分などを写真、動画などを含めて編集し、「見せるHP」、「楽しめるHP」になるよう、他の学校等(特に私立高校)の例なども参考として、工夫を重ねて欲しい。</p> <p>・高校のPTAも徐々に保護者の関心を呼ぶようになり、学校行事への参観やいろいろな学校への支援活動等も用意して、魅力ある学校づくりに着手して欲しい。</p>

② 危機管理

観点	防災計画・防犯計画は学校の実態を踏まえた計画であり、訓練が適切に行われているか
評価	<input checked="" type="radio"/> A (満足できる) B (概ね満足できる) C (努力が必要)
	A (満足できる) <input checked="" type="radio"/> B (概ね満足できる) C (努力が必要)
	A (満足できる) <input checked="" type="radio"/> B (概ね満足できる) C (努力が必要)
所見	<p>・避難訓練等が適切に実施されている。</p> <p>・「がやっこレスキュー隊」をはじめ、集団下校訓練など生徒に防災意識をもたせるような取組を行っており、発災時に役立つ知識や情報を身に付けさせている。</p> <p>・防犯についての取組について顕著なものが見受けられなかったが、地域との連携力を生かして防犯の取組を生徒も関わった形で行うなど工夫してもよいのではないかと。小中学校では「不審者侵入時対応訓練」を行っている学校が多い。</p> <p>・生徒の変容も明らかになりつつあり、生徒自身の危機管理への意識も高まってきている。危機管理には、「これで十分」ということはないの、気を抜くことなく、「常に危機は身近に迫っている」という意識を大切にしたい。高校生は、近隣の幼稚園や小学校、中学校などからも頼りにされる存在でもあり、さらなる連携を推進して欲しい。</p>

(4) 総合所見

- ・全体として、着実な成果を挙げている学校づくりとなっている。
- ・進路実現、進学の実績の向上も見られる。多くの生徒の努力と教職員の不断の授業改善などの努力によるものである。
- ・校長のリーダーシップの下、学校が活性化している。「特色ある高校づくり」として、進路指導重点校の指定を受け、進路実績を上げている。目標を達成するために必要な手立てが順次進められている。教育課程の改訂や、能動的な授業方法への取組は評価できる。
- ・横浜市立高校としての「魅力ある高校教育の推進」に熱心に取り組もうとしている。
- ・外部の研修で学んだことを校内に生かそうとする教職員の存在があり、教職員の異動などでもその姿勢をつなげていくよう期待する。
- ・授業の中で教材に対して様々な話題を取り入れながら質問をふったり、隣の生徒同士で相談しながら解決できるようにし、生徒が授業に興味をもって参加している。
- ・全校で行うバレーボール大会をはじめとして様々な行事に生徒が積極的に参加しており、それが桜丘高校へ多くの中学生が進学希望をもつ要因ともなっている。
- ・生徒会役員との懇談の中で、生徒も多忙(特に学習面)であることが伝わってきたが、学校生活を楽しく過ごせていることが伝わってくる。
- ・緑豊かな環境の中に校舎の他に図書館棟、第1体育館、第2体育館、弓道場があり、生徒が豊かな環境の中で伸びのびと生活できている。
- ・地域への貢献度が非常に高く、地域の高等学校として伝統にふさわしい活動をしている。小・中学校等との連携についても、他では推進していくことがなかなか難しい中、しっかり連携を取っている状況があり、今後とも継続させていって欲しい。
- ・国公立大学や難関私立大学への合格実績は、さらに一段階上を目指すべきである。生徒や教員の潜在的な能力は、まだまだ向上できる余力があるものと見受けられる。そのためには、能動型学習の工夫の他に、学習環境として、適度の刺激的な競争的な条件整備をすることも重要である。
- ・一部の教職員の献身的な努力に依存している部分も見受けられる。組織として学校改善が進められるよう、グループ毎に具体的な目標を設定し、その達成へのプロセスに向けての工程表を作成し、見通しを持って実施することが望ましい。
- ・能動的な授業に向けての改善は、個人差が大きい。各教科において、改善の方法を共有するための機会を持つようにすることが望ましい。すでに他校等への視察を実施しているのであるから、良い事例を自分たちで活かすための工夫が必要である。
- ・校舎が老朽化しており、壁の剥落、階段踊り場の床の亀裂等、非常に多く見受けられ教育環境の整備・改修が望まれる。清掃等では解決しない問題であり、環境は人を育てていく上で大切な条件であるので市教委でぜひ、対応して欲しい。
- ・施設の老朽化により、一部修繕が必要などところがある。とりわけ、正面玄関上の壁が一部剥離している箇所があり、早急に対応する必要がある。
- ・進学指導重点校としての期待は、他の学校へのモデルとなること、本校の教員が異動後に、学校改革の柱となるなどの期待も込められているものと理解している。教育委員会からの一層の支援も強く要請する。

3 横浜市立南高等学校(訪問調査日:平成 27 年6月 26 日)

訪問調査担当者: 生田 麻実、榎田 卓央、落合 優

南高等学校の概要

創 立: 昭和 29 年 4 月 住 所: 横浜市港南区東永谷二丁目 1 番 1 号
 課 程 等: 全日制 普通科
 クラス数: 15 クラス (1 年 5 クラス、2 年 5 クラス、3 年 5 クラス)
 生 徒 数: 586 名 (1 年 198 名、2 年 197 名、3 年 191 名)
 学 校 長: 鈴木 英夫 校長代理: 碓 郁夫

(1) 横浜市教育振興基本計画の推進状況

観点	「次代を担うグローバル人材の育成」のための取組を推進しているか
評価	<input checked="" type="radio"/> A (満足できる) B (概ね満足できる) C (努力が必要)
	<input checked="" type="radio"/> A (満足できる) B (概ね満足できる) C (努力が必要)
	A (満足できる) <input checked="" type="radio"/> B (概ね満足できる) C (努力が必要)
所見	<p>・完成形への過渡期的な段階にあると考えられるが、将来あるべき姿を明確にし、「高い学力」と「豊かな人間性」を備えたグローバルな人材育成に向け、指導、相談、援助体制を整え、「特色ある高校づくり」のための取組が十分に進んでいる。</p> <p>・民間企業の模試を積極的に活用するなどの取組も斬新に感じられ、次代を担うグローバルな人材育成が急務と言われている我が国の高等教育の範となれる高校であると強く感じる。</p> <p>・東南アジアに注目し、貧困格差や文化の違いなどの気付きから、日本を取り囲む世界の現実を知り、ビジネスで対応できるコミュニケーション能力を身に付けるという明確な目的に、実践的な取組が見られる。</p>

観点	「特色ある高校づくり」のための新たな使命達成に向けた取組を推進しているか
評価	<input checked="" type="radio"/> A (満足できる) B (概ね満足できる) C (努力が必要)
	<input checked="" type="radio"/> A (満足できる) B (概ね満足できる) C (努力が必要)
	A (満足できる) <input checked="" type="radio"/> B (概ね満足できる) C (努力が必要)
所見	<p>・校長の強いリーダーシップのもと、副校長や経営に取り組む職員が、中高一貫校としての使命に熱く取り組む姿勢が見られる。生徒たちも、学校が日々変わっていくことに手応えを感じており、学校生活も充実したものとなり、そこには確かなビジョンが共有されている。</p>

観点	「生徒一人ひとりの能力を最大限に伸ばす教育の充実」のための取組を推進しているか
評価	<input checked="" type="radio"/> A (満足できる) B (概ね満足できる) C(努力が必要)
	<input checked="" type="radio"/> A (満足できる) B (概ね満足できる) C(努力が必要)
	A (満足できる) <input checked="" type="radio"/> B (概ね満足できる) C(努力が必要)
所見	<p>・6年間を見据えたカリキュラムを作成し、授業内容をシラバスとして明確にするとともに、高い頻度で教員研修を行うなど教科指導上の取組の他、個性と自主性を伸ばす TRY&ACT や、模擬試験結果を活用したエビデンスに基づいた主体的な学習計画の作成など、「生徒一人ひとりの能力を伸ばす教育」は十分に進展している。</p>

(2) 教育活動の状況

① 特別活動・部活動

観点	生徒は主体的・自立的な活動を行い、学校は活動の活性化に努めているか
評価	<input checked="" type="radio"/> A (満足できる) B (概ね満足できる) C(努力が必要)
	A (満足できる) <input checked="" type="radio"/> B (概ね満足できる) C(努力が必要)
	A (満足できる) <input checked="" type="radio"/> B (概ね満足できる) C(努力が必要)
所見	<p>・附属中学校の生徒も視野に入れて南高祭を企画・運営したり、高い割合で部活動に所属し活発に活動するなど、生徒の主体的・自主的な取組は盛んに行われ、生徒も自らの学校の自由さ、主体性の尊重、自主的活動などを誇りと感じており、きわめて良好な状況である。これから、時が経過し、附属中からの生徒が3学年揃った時も、この特色を堅持することが望まれる。</p> <p>・生徒代表によるプレゼンテーションをはじめ、生徒が主体的になり自発的に物事に取り組む姿は、大変立派であった。校長先生の指導のもと、顧問の教員が熱心に生徒指導に取り組まれた成果である。</p> <p>・授業をビデオ撮りし模範授業や勉強会の資料にするなど、教員は授業力の向上に取り組んでいる。部活動を制限することにより、生徒が無理なく学習時間を確保できている。放課後の補習など個別対応にも積極的である。高校の先生が中学校の指導にも参加する分、スパイラル教育や個々の習熟度の把握など一貫教育が可能になるが、双方に負担があり、職員の負担は他校と比較して大きいように見られる。</p>

② 生徒指導・教育相談

観点	生徒の生活習慣の確立及び規範意識の形成に向けて教職員一丸となって取り組んでいるか
評価	<input checked="" type="radio"/> A (満足できる) B (概ね満足できる) C(努力が必要)
	<input checked="" type="radio"/> A (満足できる) B (概ね満足できる) C(努力が必要)
	A (満足できる) <input checked="" type="radio"/> B (概ね満足できる) C(努力が必要)
所見	<p>・野島スタートアップ研修や TRY&ACT の学習活動を始め、各教科でも積極的にアクティブラーニングを導入するなど、コミュニケーション力の向上に力が注がれ、人間関係に好影響を与えている。</p> <p>・来客に対して、高校生が大きな声であいさつをしている。また、あいさつが習慣づけられているというよりも自然な形であいさつを交わす姿が印象的である。</p>

③ 進路指導

観点	進路指導が綿密に計画され、生徒の希望進路を叶える取組が行われているか
評価	<input checked="" type="radio"/> A (満足できる) B (概ね満足できる) C(努力が必要)
	A (満足できる) <input checked="" type="radio"/> B (概ね満足できる) C(努力が必要)
	A (満足できる) <input checked="" type="radio"/> B (概ね満足できる) C(努力が必要)
所見	<ul style="list-style-type: none"> ・模擬試験の結果を利用し、生徒が自ら考えて進路を決定していく方式の進路相談や、豊富な進路先情報の提供の結果として、「第1志望宣言」や[My志望理由書]の作成につながり、生徒一人ひとりに応じた目標設定や進路選択に大きく貢献している。 ・進路についての適切な指導相談活動が生徒の一人ひとりの問題に対する支援につながっている。 ・進路指導に関しては、多くの生徒が行き交う場所に各大学の様々な資料を開架して閲覧できるように施してある。誰もが気軽に手元に資料等を置ける中、教職員がきめ細やかに個に応じた進路指導がなされている。 ・常設の大学案内コーナー、「第一志望校宣言」など、生徒の意欲を引き出す仕掛けが用意されている。進路通信には初めて大学受験に挑戦する生徒への丁寧な指導が感じられる。 ・私立進学校と比較するとまだ実績がないため、実績を作り、難関大学を目指す家庭にどれだけPRし、選択されるかが課題である。

④ 保健指導及び環境美化

観点	生徒の健康管理や学校の環境美化の指導を適切に行っているか
評価	<input checked="" type="radio"/> A (満足できる) B (概ね満足できる) C(努力が必要)
	A (満足できる) <input checked="" type="radio"/> B (概ね満足できる) C(努力が必要)
	A (満足できる) <input checked="" type="radio"/> B (概ね満足できる) C(努力が必要)
所見	<ul style="list-style-type: none"> ・保健および環境美化については、校内の整理整頓が行き届いており、生徒も教職員も学校を大切に使っている。

(3) 学校経営の状況

① 組織運営及び教職員研修

観点	教職員が意欲的に業務に取り組める組織である。また、課題解決のための教職員研修が行われているか
評価	<input checked="" type="radio"/> A (満足できる) B (概ね満足できる) C(努力が必要)
	A (満足できる) <input checked="" type="radio"/> B (概ね満足できる) C(努力が必要)
	A (満足できる) <input checked="" type="radio"/> B (概ね満足できる) C(努力が必要)
所見	<ul style="list-style-type: none"> ・歴史ある南高から中高一貫教育校としての南高に変わるために、一貫校のあり方を学校内で研修することや、多忙感を解消しモチベーションを上げる工夫がなされるなど、新しい校風を徹底させる努力が行われている。 ・中高一貫校育校という新しい取り組みに関与していることに教員の意識は極めて高く、校長主導による基本的方向に関する理解や、中高6年間を見とおした各教科の指導内容、方法に関する情報もしっかりと共有・確認されている。新しいスタイルの学校であるからこそ情報共有が大切だという認識が高い。

所見	<ul style="list-style-type: none"> ・校長のリーダーシップが、教職員に万遍なく伝わっている。管理職以外の、主幹教諭やベテラン教諭の業務への取組姿勢が常に前向きであり、若手教員への直接的、間接的な指導にもつながっている様子である。中学校との情報交換や相互研修も活発であり、一貫教育の醍醐味に取り組む意欲的な姿が多々見られる。
----	---

(4) 総合所見

<ul style="list-style-type: none"> ・中高一貫教育校としての特色を十分に生かして、「理性・自主性・創造」という教育理念を具体化させ、実現するために、学校経営、教科指導、進路指導等多くの側面において、積極的な取組がなされている。 ・南高校は今後ますます必要とされるグローバルな視野をもった人材育成の高等学校として、澁刺とした空気に囲まれ、生徒たちの目の輝きとそれを見守る教職員のやる気を感じる。横浜のみならず、中高一貫教育の旗艦学校としての今後の姿がとても楽しみである。 ・ベテラン教員の退職と若手教員の大量採用時代が続く中で、いかに教育の質を維持するかが課題である。幸いなことに研修や情報共有といった職員の意識の高さを感じられたので、課題を乗り越える事は難しくないと認識する。進学先のさらなる拡充を期待したい。 ・高校から入学する生徒と、附属中学校から進学する生徒との関係づくりはどうか。一クラスの高入生の扱いが今後のカギのように感じる。 ・学校の立地として市内でも北部からは通いづらく、同じ時間をかけて通うなら名実のある都内私立高校などに流れがちである。かと言って、市の税金を使って市外の生徒に門戸を広げるのには疑問もある。遠くからでも通いやすい工夫がされるといい。 ・純粋に一貫校としての新南高校となってから(平成 29 年度以降)、こうした取組がどのような成果につながるかが期待されるところである。 ・附属中から進んだ生徒・保護者と、高入生との間に学力や意識の格差が少なくなるよう、配慮が必要である。 ・従来から南高校が培ってきた、自由さ、活発さ、明るさという特色が、どのように受け継がれていくかについても興味深いところである。
--

4 横浜市立南高等学校附属中学校平成 27 年6月 26 日)

訪問調査担当者：生田 麻実、榎田 卓央、落合 優

南高等学校附属中学校の概要

創 立：平成 24 年 4 月 住 所：横浜市港南区東永谷二丁目 1 番 1 号
 クラス数：12 クラス（1 年 4 クラス、2 年 4 クラス、3 年 4 クラス）
 生徒数：479 名（1 年 160 名、2 年 160 名、3 年 159 名）
 学 校 長：高橋 正尚

(1) 横浜市教育振興基本計画の推進状況

観点	「特色ある高校づくり」のための新たな使命達成に向けた取組を推進しているか
評価	○A (満足できる) B (概ね満足できる) C(努力が必要)
	○A (満足できる) B (概ね満足できる) C(努力が必要)
	A (満足できる) ○B (概ね満足できる) C(努力が必要)
所見	<p>・中高一貫教育校の前期3年間に該当する附属中学校として、その使命をしっかりと認識し、達成に向け取り組んでいる。また、平成 27 年度には、卒業生が南高校に進学したが、その割合は 100%であり、前期課程としての使命は十分に達成できている。</p> <p>・学習面では、様々な資源(人的資源・物的資源等)を遺憾なく活用している。</p> <p>・成果として、中学3年生で英検準2級合格者が85%と全国トップレベルに達していること、全国学習状況調査では各部門で全国平均を大幅に上回っていること等、データでもその成果が顕著に示されている。</p> <p>・教職員も、中学・高校の垣根を越えての合同授業研究会を開催したり、高校の教員が中学校の授業に出前して教授したりと、中高一貫教育ならではの教育課程への取組がうかがえる。</p> <p>・高校生との交流や大学案内の掲示など、日常的に進路を考えるチャンスが与えられている。修学旅行をカナダに変更するなど、早期からグローバルな人材育成への取組が見られる。</p>

(2) 教育活動の状況

① 教科指導

観点	生徒の実態を把握し、身に付けさせたい学力の定着を図るための適切な指導を行っているか。教員は授業力向上に努めているか
評価	○A (満足できる) B (概ね満足できる) C(努力が必要)
	○A (満足できる) B (概ね満足できる) C(努力が必要)
	A (満足できる) ○B (概ね満足できる) C(努力が必要)
所見	<p>・6年間にわたる中高一貫教育を視野に入れ、教育目標を生徒・保護者に周知徹底するとともに、教科指導について高校の教員も含めた研究会を行い、また、指導力向上のための研修も頻繁に行っている。</p> <p>・学校教育目標達成に向けて、校長のリーダーシップのもと、教職員がそれぞれの持てる力を発揮すべく教科指導に取り組んでいる。</p> <p>・家庭学習の週プランを提出させて管理を図るなど、個々への対応が推進されている。内容の真偽はともかく、意識付けの効果は期待できる。</p>

所見	<p>・外国語の授業では、オールイングリッシュでの授業展開であり、ヒアリングとスピーキングに一層の力を入れており、生徒たちも自然な形でそれを受け入れての授業進行が為されている。教員も、生徒の関心・意欲を引き出し、維持するために、教材の研究を工夫している。6年間の一貫教育の中で、前半部分からこのような形で外国語授業が行われることは、国際化・グローバル化が進行するこれからの世の中をリードする若者に、多くのモチベーションを与えられると確信する。</p>
----	---

② 生徒指導・教育相談

観点	生徒の生活習慣の確立や規範意識の形成に向けて教職員一丸となって取り組んでいるか
評価	A (満足できる) <input checked="" type="radio"/> B (概ね満足できる) C (努力が必要)
	<input checked="" type="radio"/> A (満足できる) B (概ね満足できる) C (努力が必要)
	A (満足できる) <input checked="" type="radio"/> B (概ね満足できる) C (努力が必要)
所見	<p>・生活の仕方や規範について新たに作り上げ、生徒に示していく必要があり、それには、教職員の間での情報共有や共通認識が不可欠だが、それに向けた努力がなされている。</p> <p>・生徒間、生徒教師間の意思の疎通を円滑にするため、1年の初めには、総合的学習の時間EGGの中で、「プロジェクトアドベンチャー」、「グループエンカウンター研修」、「コミュニケーション研修」などの取り組みが行われている。</p> <p>・生徒は、いきいきと学校生活を送っている。遠距離を通ってくる生徒もいて、教職員の心配も他校に比べて多いと思われるが、そのあたりもしっかりと教職員は認識し、対応に当たっている姿が感じられる。</p> <p>・この学校が実は第1志望ではない生徒への、今後のさらなるケアを引き続き対応していただきたい。</p> <p>・様々な取組が積み重ねられ、その成果として生活習慣や規律意識のより高い次元での形成が将来に向けて期待される。</p>

(3) 学校経営の状況

① 教育目標等の設定・実施

観点	教育目標が生徒や学校の実態を踏まえた内容であり、目標達成に向けて教職員は意欲的に取り組んでいるか
評価	<input checked="" type="radio"/> A (満足できる) B (概ね満足できる) C (努力が必要)
	<input checked="" type="radio"/> A (満足できる) B (概ね満足できる) C (努力が必要)
	A (満足できる) <input checked="" type="radio"/> B (概ね満足できる) C (努力が必要)
所見	<p>・6年間を見通した教育目標が必要で、それを周知徹底し、実現を図っていく取組が求められる。入学志望や入学直後の段階から生徒とその保護者に、一貫教育の前期課程であること、及び、6年間にわたって実現すべき教育目標が設定されていることが十分に周知されている。</p> <p>・授業を録画して新任は改善に取り組む、或いはベテランを模範とするなど、授業の技術向上に取り組んでいる。土曜EGG、独自のカリキュラムなど、魅力がある。</p> <p>・教育目標に向けて、教職員が一丸となって努力するとともに、折に触れて、生徒が教育目標を再確認できるように工夫がなされている(例:学年だよりのヘッダー部分に教育目標を明示している、など)。</p> <p>・保護者との連携については、学校としてのきめ細やかな取組姿勢を感じる。選抜されて入学した中学生にどのような教育を施すのか、様々に思案している。校長先生の思いが職員に、今まで通り浸透されていくことを期待する。</p>

② 保護者・地域等との連携協力

観点	学校から保護者及び地域へ教育活動についての情報提供を行う協力体制があるか
評価	A (満足できる) B (概ね満足できる) C (努力が必要)
	A (満足できる) B (概ね満足できる) C (努力が必要)
	A (満足できる) B (概ね満足できる) C (努力が必要)
所見	<ul style="list-style-type: none"> ・新設校と見なすことができ、また、通学範囲の広い南高校附属中学校では、地域との連携は、まだ南高校ほどには緊密ではない。こうした事情を踏まえて、地域での事業への参加を奨励し、地域に開かれ、愛される学校づくりを目指していることがうかがえる。 ・保護者との関係については、土曜日の総合的学習の時間「EGG」の参観、保護者懇親会などを通じて、情報提供、情報交換に努めており、一定の成果を上げている。 ・他の公立中学校と違い、各地域からの生徒を受け入れている関係で、様々な苦労がある事が理解できる。通学時の交通機関内でのマナーに対するクレームや、地域とのつながり等に気を遣っている様子がうかがえる。 ・地域に開かれ、愛される学校づくりを目指した取組が継続的に実践され、より密接な地域・保護者との関係づくりが実現されることが期待される。 ・今後も引き続き地域に受け入れられる附属中学校として、様々な施策を考えている様子だが、学期ごとに一回全校上げて地域清掃を行うとか、近隣の中学校と協働して取り組むとよい。 ・公立の学校に通っている意識があるのか疑問。学校の周りに顔見知りがない、受検して入学し通学時間が公立中学生より長いことで、ある種解放されている。中高一貫校として特別であることも必要だが、いかに公立校として地域貢献を取り入れるかが課題である。

(4) 総合所見

<ul style="list-style-type: none"> ・前期課程としての位置付けや使命を教職員がしっかりと認識し、教育目標の明確化、一貫カリキュラムの構築と展開、教科指導における指導力の向上等、様々な側面での取組が積極的に行われている。また、今年度全ての生徒が南高校に進学したこと、南高校に入学した生徒が生き生きと高校生活を送っていることなどから、前期課程としての役割をしっかりと果たしていると評価できる。 ・一貫教育の後半を担う高校の校長や職員との連携が、他の模範となる取組となっている。 ・広大な敷地と施設、南高校の附属中としての恩恵を十分に受けた、素晴らしい環境にある。受検である程度精査された学力の生徒が、充実したカリキュラムで成果を上げている。
--

5 横浜市立金沢高等学校(訪問調査日:平成 27 年6月 30 日)

訪問調査担当者：植田 みどり、榎田 卓央、小松 郁夫

金沢高校の概要

創 立：昭和 26 年 4 月 住 所：横浜市金沢区瀬戸 22 番 1 号
 課 程 等：全日制 普通科
 クラス数：24 クラス（1 学年 8 クラス、2 学年 8 クラス、3 学年 8 クラス）
 生 徒 数：951 名（1 年次 319 名、2 年次 317 名、3 年次 315 名）
 学 校 長：三浦 昌彦

(1) 横浜市教育振興基本計画の推進状況

観点	「特色ある高校づくり」のための新たな使命達成に向けた取組を推進しているか
評価	A (満足できる) <input checked="" type="radio"/> B (概ね満足できる) C(努力が必要)
	A (満足できる) <input checked="" type="radio"/> B (概ね満足できる) C(努力が必要)
	<input checked="" type="radio"/> A (満足できる) B (概ね満足できる) C(努力が必要)
所見	<ul style="list-style-type: none"> ・特進クラスの設置と運用も、入学してくる生徒の状況を見極めながら、丁寧かつ長期的な視点で指導に当たっている。 ・外部との共存を意識しながらも、学校としての使命を自覚し、教員が放課後や長期休業中にも生徒の相談や学習指導に当たっている点は評価できる。 ・進学指導重点校としての様々なミッションに、校長のリーダーシップのもと教職員が生徒の教育に熱心に取り組んでいる。 ・休日には教職員がボランティアで出勤して自習室を開放するなど、学習に取り組む生徒を様々な形で支援している。 ・生徒が学校行事や部活動などの学習面以外での生活も大切にしながら、普段の授業での学習を重視して、着実に力を付けている生徒が少なくない。 ・進学実績などでは、年度によって、大学によって変動があり、顕著な成果を上げるまでには至っていない。多方面から、その原因と結果を分析して、授業改善を軸とした学校改革を一層積極的に推進することを期待する。 ・進学指導重点校としてのミッションを管理職は意識しながらも、教職員全員の意識改革までは十分に行えていない点がある。組織的に進学指導重点校としての方向性を共有し、活動に取り組むことを期待する。 ・教育活動の継続性を考えると、教員の意欲やボランティアに依存しない、組織的な体制や条件整備が必要である。

(2) 教育活動の状況

① 教育課程

観点	学校の実態、課程や学科の特色を十分考慮した教育課程の編成がなされているか
評価	A (満足できる) <input type="radio"/> B (概ね満足できる) <input checked="" type="radio"/> C (努力が必要)
	A (満足できる) <input type="radio"/> B (概ね満足できる) <input checked="" type="radio"/> C (努力が必要)
	A (満足できる) <input type="radio"/> B (概ね満足できる) <input checked="" type="radio"/> C (努力が必要)
所見	<p>・コース変更など課題に対応した取組を行うと共に、教育課程の編成においても工夫を行ってきている。</p> <p>・生徒・保護者のニーズを的確に捉え、平成28年度から特進クラス編成をやめて、全クラスで特進プログラムを実施する変革に果敢に取り組み、学力向上と進路実現に一層の結果を出そうとする姿勢は評価できる。</p> <p>・平成28年度から全クラスを特進プログラムにすることから、新たな挑戦を控え、その準備は概ねできているが、その実効性を継続的に把握することが重要である。そのためにも、具体的な達成目標や検証プロセスの整備が必要である。</p>

② 教科指導

観点	生徒の実態を把握し、身に付けさせたい学力の定着を図るための適切な指導を行っているか。教員は授業力向上に努めているか
評価	A (満足できる) <input type="radio"/> B (概ね満足できる) <input type="radio"/> C (努力が必要) <input checked="" type="radio"/>
	A (満足できる) <input type="radio"/> B (概ね満足できる) <input checked="" type="radio"/> C (努力が必要)
	<input checked="" type="radio"/> A (満足できる) <input type="radio"/> B (概ね満足できる) <input type="radio"/> C (努力が必要)
所見	<p>・夏期講習、土曜講習等の充実を図り、家庭学習の定着を指導の重点に置くなど、あくまで生徒の自主的、自立的な学習を奨励して、学力の向上に積極的に取り組んでいる。</p> <p>・学年別の授業ガイドを整備し、各教科の内容の紹介だけでなく、学習のポイントや興味ある内容を掲載するなど、工夫した跡が散見され、それぞれの教科への興味をそそるよう工夫されている。</p> <p>・様々な場を通して学習習慣の重要性を訴えている中、学校評価においては、教職員・生徒・保護者の多くが前年度よりも肯定的な評価をしている。たゆみなく日々新たに様々な教科指導や進路指導が施されている証である。</p> <p>・授業ガイド等の資料を全体としての学習効果の向上にまでは結びつけられていないようで、日頃の授業で、もっと活用されることが望ましい。授業方法や教材の工夫などに、さらに一層の改善が要望される。特に、授業内での生徒の能動的な学習を誘発するような教科指導の改善が望まれる。現状では、各生徒個人へのきめ細やかな指導、個別指導、個人面談などが積極的に実施されているが、これでは、ますます教員の多忙化を促進し、教員からの学習刺激に依存する傾向が強くなる危険性も心配される。</p> <p>・最近の生徒が、具体的な学習指導の他に、心の面からのサポートが必要になってきている状況も理解できるが、「学問真理の探究」や「自主自立の精神」を校是としてきた伝統を生かすためにも、学びに渴望感を持つような、たくましい生徒の育成を期待する。</p> <p>・教員間の指導力に差がある。指導力向上に教員が組織的に取り組むと共に、アクティブラーニングなどの新しい授業の工夫にも積極的に組織全体で取り組むことを期待する。</p>

③ 進路指導

観点	進路指導が綿密に計画され、生徒の希望進路を叶える取組が行われているか
評価	A (満足できる) <input checked="" type="radio"/> B (概ね満足できる) C(努力が必要)
	A (満足できる) <input checked="" type="radio"/> B (概ね満足できる) C(努力が必要)
	A (満足できる) <input checked="" type="radio"/> B (概ね満足できる) C(努力が必要)
所見	<ul style="list-style-type: none"> ・生徒との信頼関係のもと目標意識を持って学習に取り組んでいる。放課後や長期休暇中の自習室での学習も積極的に行われている。 ・学校独自のデータ分析に加えて、塾とも連携しながら、個別の学力状況を把握し、進路指導に生かしている点も評価できる。 ・進路に関しては、教職員が常に生徒の立場に立って熱心に対応している。資料室の蔵書も充実しており、生徒たちが気軽にいつでも訪れることができる雰囲気になっている。 ・学校評価を分析して気が付くのは、保護者からの信頼が厚いことである。生徒のみならず、保護者にも進路学習会や三者面談等で丁寧に説明を施した結果と推察される。 ・模擬試験の事後解説などは、その後の学習の方向性や重点化などに効果的であり、生徒自身でもしっかりと見直しをするように指導をする必要がある。 ・放課後や休日での自習室や進路室などを利用した自主的な学習は、教員の熱意で継続され、成果をあげているようだが、一部の教員のボランティアに依存するばかりでは、多忙化を増長し、教員間での負担感の軽重につながる。 ・日頃の授業などで生徒の疑問点や質問を上手に授業に活用し、クラスや学年の共同の学びへとつながるような工夫も必要である。 ・進路指導という点では一定の成果を上げているが、キャリア教育という点ではまだ不十分な点もあるので、目的意識を持って進路選択や職業選択ができるような進路指導のさらなる充実を期待する。 ・進学指導重点校として、生徒や保護者の多様なニーズにいかに対応するのか、また大学入試改革へいかに取り組んでいくのか、今後も期待しながら見守っていきたい。

④ 組織運営及び教職員研修

観点	教職員が意欲的に業務に取り組める組織である。また、課題解決のための教職員研修が行われているか
評価	A (満足できる) <input checked="" type="radio"/> B (概ね満足できる) C(努力が必要)
	A (満足できる) <input checked="" type="radio"/> B (概ね満足できる) C(努力が必要)
	<input checked="" type="radio"/> A (満足できる) B (概ね満足できる) C(努力が必要)
所見	<ul style="list-style-type: none"> ・管理職のリーダーシップの下で、常時、組織の見直しや改善が図られている。特に、高等学校で問題となる事例が多い、学年組織と校務分掌組織との効果的な連携に腐心している ・個々の教員が、自己の職責を自覚し、積極的に資質能力の向上や生徒指導に取り組んでいる点は評価できる。

所見	<ul style="list-style-type: none"> ・会議等の精選を図り、企画調整委員会を設置し、迅速な意思決定や組織的な取組の要となる組織を整備したことは評価できる。 ・課題解決の為の研修については組織的に取り組んでいること、成果として教職員の肯定的な評価が年々増加していること等は、明るい材料である。 ・教職員の高齢化が課題になりつつある時に、特に中間層の教職員の人材育成が大きな課題となる。 ・企画調整委員会を始め、各種の委員会の効率的な運営に一層の工夫が必要である。 ・組織を再検討し、課題に応じて、常置の委員会組織にすることなく、プロジェクト型の組織で、臨機応変に課題解決に望むなど、マネジメント力の発揮が望まれる。 ・教員の研修意欲については、教員間での差が見られる。校内でもお互いの授業を見合うなど、日常的な研修の充実を図る取組の整備を期待する。 ・教職員の高齢化と異動、そして若手教員の大量採用等の課題に関して、業務引継ぎの工夫が一層求められているとの自己分析があるので、今後も見続けていく。
----	--

(3) 学校経営の状況

① 危機管理

観点	防災計画・防犯計画は学校の実態を踏まえた計画であり、訓練が適切に行われているか		
評価	○A (満足できる)	B (概ね満足できる)	C(努力が必要)
	○A (満足できる)	B (概ね満足できる)	C(努力が必要)
	A (満足できる)	○B (概ね満足できる)	C(努力が必要)
所見	<ul style="list-style-type: none"> ・防災や危機管理への取組は、年々きめ細かく、多様な活動が工夫されている。 ・立地条件に伴う津波に対する訓練や、昨年度から加えられた火災への避難訓練を含めて、学校としては様々に計画立案し訓練に当たっている。 ・生徒による評価においては質問項目中最も低いデータが示されたことを学校が重くとらえて、今後の体制作りや情報発信に取り組む施策は高く評価する。 ・自転車通学生徒が16%いることから、改正道路交通法への対処等、生徒指導に努めている。 ・危機管理について適切に行われている。管理職の意識だけでなく、教員自身からも積極的な意見ができるなどボトムアップの形での取組がなされている点で、教員の意識も高いと言える。 ・危機管理に万全は有り得ない。地震、津波、異常気象、火災等、現代社会の危機は多様であり、時に複数の災害などに見舞われるケースも予想される。学校が主体的に計画を策定し、日頃の訓練を怠ること無く、さらには高校段階では、生徒自身の自助能力を高める工夫が必要。また、ご家庭や近隣機関との連携も重要である。 		

(4) 総合所見

- ・市内の伝統校として、着実にその成果を上げている。
- ・個々の教員が勤労意識や改革意識も高く、授業改善や研修、生徒への学習及び進路指導などに積極的に取り組んでいる点は評価できる。
- ・放課後や長期休業中も生徒への対応に当たっており、教員の意欲は高く、この点は評価できる。
- ・企画調整委員会を設けるなど、学校経営上の工夫をしている点は評価できる。管理職が全体を把握した上で、各分掌のリーダーに役割分担をしながら、学校全体での組織的な取組をリードしようとしている経営力を見ることができたので、今後のさらなる発展に期待する。
- ・管理職のリーダーシップの下で、進学指導重点校としてのミッションを果たすための、教育活動が計画的に展開されている点は評価できる。
- ・休日の自習室の開放や、個別の面談の強化等、地道な取組が生徒や保護者からの信頼感醸成につながっている。生徒の基礎学力は概ね高いことが見込まれるものの、大学進学には不安を抱える生徒がいることも理解して、精神的な補助も施していることは評価できる。
- ・全体指導に加えて個に応じたきめ細やかな指導も併せ持つ学校として評価できる。今後の進学先の行方に期待が持てる。
- ・進学指導重点校として期待しているレベルからさらに高い目標を設定している。残念ながら、進路実績に関しても、生徒自身の変容、大学側の複雑な変化などもあって、目を見張るほどの成果を獲得する所までは至っていない。
- ・期待される成果を着実に獲得するためには、まずは日常の授業改善が中核になる。これまでのような教え込み型の授業からの脱皮、生徒の積極的な学びを誘発するような指導方法の改善などが喫緊の課題である。ICTの活用なども、今から備える必要がある。「自主自立の精神」は、まずは学習面で発揮されることが肝心である。
- ・施設の老朽化が進んでいる事が少し気になる。施設面で充実への一段の配慮をお願いする。
- ・教員間に差がある点も見受けられるので、教職員が一丸となって進学指導重点校としてのミッションを自覚し、同じ方向性と意識を持って組織的に取り組んでいくことを期待する。
- ・教員の意欲やボランティアに依存している点もあるので、今後の取組の継続性を考えるならば、教員の勤務負担軽減を図りながら、組織的に取り組めるような、条件整備と組織作りを期待する。
- ・伝統と特長を生かしつつ、新しく必要とされる学力の育成を視野に入れた、カリキュラムの改革、学習意欲の向上と家庭学習の充実など、地道な努力も重要である。潜在的な学校力が十分に備わっている学校なので今一步の飛躍を楽しみにしたい。
- ・平成28年度からの全クラスでの特進プログラムの展開については、達成状況の把握と成果と課題の把握など、適切な進捗状況の管理と改善のための検証が行われながら実施されることを期待する。
- ・管理職をささえるミドルリーダーの学校経営を担う人材育成を図りながら、組織的に取り組む体制の整備に期待する。